

白山ふるさと文学賞

第十四回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年 作文の部 優秀賞

「憧れの人のように」

松任小学校六年

本多ほんだ

未佳みか

私は将来、小学校の先生になり、たくさんの人を支えられる存在になりたいと思っています。そんな夢を持ち始めたのは、小学四年生の頃です。さまざまことに興味を持ち始め、先生という存在を意識するようになった時期でした。

四・五年生の時の担任の先生は同じでした。いつも明るく、クラス全体の雰囲気をつくり、クラスみんなを平等に見てきました。してはいけないことや、やるべきことをしつかり教えてくれ、時には叱つてくれて、私達を真剣に育ててくれました。また、勉強が得意な子も苦手な子も、その子に合わせた声かけをしてくれて、みんなが自分のペースで頑張れるように応援してくれたのです。その頃から、私は先生という存在の大きさに、少しづつ気づき始めました。私は授業でもよく発言し、勉強も得意な方でしたが、四年生の最初はまだまだ直さない所がたくさんありました。そんな私が毎日少しづつ成長できたのは、あの先生のおかげです。毎日、新しいことを学び、ノートも発表も生活もどんどん良くなつていきました。そして私は、「この先生になりたい」と強く心に誓つたのです。

「小学校の先生になりたい」と口で言うのは簡単です。でも、実際に先生のようになるには、たくさんの努力が必要です。だから私は、今からできることは積み重ねていかないといけません。だから、主に六つの目標を考え、もう始めています。

まず一つ目は、人の気持ちを考える力をもつと今の倍ぐらい伸ばすことです。どんな子にも優しく声をかけ、その子の気持ちに寄りそえる先生になるためには、ただ明るく接するだけではなく、その子の立場になって考えることが大切だと思います。友達が困っている時は、「今この子はどんな気持ちかな」と相手の立場になつて考えるようにしています。

二つ目は、自分の苦手なことにもチャレンジする気持ちを大切にすることです。今まで、できることに自信を持つて頑張つてきました

が、苦手なことからは目をそらしてしまったこともあります。しかし、それはもうやめて、挑戦して出来なかつたことを出来るに変えたり、上手にしたり、成長し続けることができるようになります。

三つ目は、努力を続けることです。先生のようになることは、一日や二日でできることではありません。勉強も体力も人との関わりも、毎日の積み重ねが大切だと、今ではよくわかります。だからこそ、今この時からあきらめずに、前に進み続けたいと思います。

四つ目は、本をたくさん読むことです。私は、本がきらいなのですが、先生という存在は子ども達を絶対に守らないといけなかつたり、急な出来事にも対処しなければなりません。そのため、どんなトラブルが起きても冷静に判断し、子ども達を安全に導くための知識がたくさん必要になつてくるはずです。

五つ目は、いろいろな人の良い所を見つける力をつけることです。先生は誰に対しても、その人の良さを見つけて、認めてくれました。私も、周りの人のステキな所を見つけ、人を認められる人になりたいです。

そして、六つ目は、学校生活の中で、たくさんの先生の行動や姿勢を見て、先生という仕事のすばらしさと大変さを知ることです。今から少しづつでも先生という仕事について詳しくなつて、あの先生に近づきたいと思っています。

私は今、小学六年生になり、夢に向かつて少しづつ前へ進んでいます。運営委員会の副委員長として委員長を支えながら、さまざまなことに挑戦しています。それだけではなく、勉強や生活、友達との関わりの中でも、自分を成長させようと日々努力しています。困っている友達がいれば声をかけたり、下級生と話すときも優しい気持ちを大切にしています。

とはいって、まだまだ足りない部分もあります。イライラしてしまうことや、つい手を抜いてしまうこともあります。しかし、そういった

自分に気づけるようになつたということは、自分が成長したということだと思います。

あの時、あの先生に出会つていなければ、私は今も夢を持てていなかつたかもしれません。夢はただ思つてはいるだけでは近づけませんが、思い続けることで、自分の行動を変えていけます。私はこれからもずっと、あの先生のよう、みんなを大切にできる大人を目指して歩き続けます。そして、「先生ってすごいね」と私が言つていたように、未来の子ども達にも、そう思つてもらえるような先生になることが、私の夢です。今はその夢に向かつて進んでいる自分を、少しだけ誇らしく思つています。いつか私が「憧れの人」と思われる時、今の私のよう、私の存在に気づいてくれる私の生徒がいますように。

